令和６年度　教育研究発表会
教育実践部門　小学校国語科

「主体的・対話的で深い学び」の個々の姿を明らかにした国語科授業

―第４学年説明的文章「アップとルーズで伝える」の実践を通して―

長岡市立新町小学校
藤澤　由美子（平成25年度）

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編
第１章　１－（２）改訂の基本方針③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

イ　授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

↓

国語科説明的文章の学習において、本時レベルでの「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を具体的に構想、設定し実践することで、漠然としたイメージで語られる「主体的・対話的で深い学び」の国語科授業における授業レベルでの実現ができるのではないかと考えた。

Ⅱ　研究仮説

　説明的文章の学習において、身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の具体を設定し、それぞれの姿を生むための手立てを講じれば、国語科授業における「主体的・対話的で深い学び」の具現を図ることができ、子どもに目指す資質・能力が育まれるであろう。

Ⅲ　研究方法及び内容

１　「主体的な学び」への手立て

　本教材は、「アップ」と「ルーズ」で物事を対比的に捉えた説明的文章である。しかし、一つ一つの言葉のレベルで読むと、日本語特有の省略表現により完全な対比(*)とは言えず、不十分な点が見つかる。阿部氏（2003）は「教科書を批判的に読む学習について、子どもたちの文章吟味力が鍛えられる」と述べている。教科書の本文の不十分さを見付け、完全な対比である文章に作り変えるという活動を提示し、修正していく学習は、「やってみたい」「挑戦したい」と主体的に学習する姿が期待できる。

(*)対比表現の中でも、言葉のレベルでぴったり一対一対応する対比表現を、本実践では「完全な対比」と呼ぶこととする。

Ⅲ　研究方法及び内容

２　「対話的な学び」への手立て

　完全な対比構造の文章を作成する学びは、レベルが高い学習となる。そのため、一人では考えることが難しい。そこで、互いに気付いたことをもち寄り、よりぴったりの対比構造にするために省略されたり欠けたりしている言葉を探し、完全な対比構造を作る言葉を選択するための話合いを組織することで、対話的な学びが期待される。

Ⅲ　研究方法及び内容

３　「深い学び」への手立て

　二つの段落で表現されている対比構造の本文は、日本語特有の省略表現などにより完全な対比となっていない。その二つの段落の文章を、言葉のレベルで完全に対比する文章に作り変える学習は、「対比」という言葉と概念を新たに学んだ子どもたちにとっては高度な学習である。一つ一つの言葉を吟味する中で「対比」の概念形成をより深く図り、深い学びとなる姿を期待する。

Ⅳ　研究の実際

第４学年

単元名「アップとルーズでとらえよう」

教材名「アップとルーズで伝える」（光村図書・4年上）

Ⅳ　研究の実際

１　単元のねらい

○考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。（知識及び技能）

○段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

○文章の言葉や対比に着目して、筆者の考えを捉えることに進んで取り組み、対比する事柄を考えながら考えをまとめようとする。（学びに向かう力、人間性等）

Ⅳ　研究の実際

2　本単元で目指す資質・能力

○「対比」という見方で文章を読み、「アップ」と「ルーズ」でものを見たり捉えたりする考え方

○「対比」を理解し、「対比」を表現として使える力

Ⅳ　研究の実際

３　指導計画

１次（２時間） 理解	教材文「アップとルーズで伝える」を読み、話題と文章構成を考える。
２次（５時間） 理解	教材文を基に「アップ」と「ルーズ」の対比について考える。
３次（２時間） 表現	二宮金次郎像をテーマに「アップ」と「ルーズ」を使った対比表現の文章を作る。

Ⅳ　研究の実際

４　単元の構想

①「アップ」と「ルーズ」の対比に着目した学習活動の設定

　対比構造を用いることで「アップ」と「ルーズ」の違いがはっきりし、言いたいことがより分かりやすい説明となる。対比関係表を作って読んだり対比する言葉に着目して文章を作ったりすることで、対比をより理解させる。

②学んだことを生かした表現活動

　学習したことを基に、一人一人が校門に建っている二宮金次郎像の説明文を「アップ」と「ルーズ」の対比表現を用いてつくる。２次までの読み取りで学んだことを生かして文章に表現する過程で、思考力・判断力・表現力が育まれることを期待する。

Ⅴ　授業の実際　（本時２次　５／９時）

ねらい

　それぞれ「アップ」と「ルーズ」で書かれた、二つの段落を比べながら一つ一つの言葉に着目して読み、話し合うことを通して、完全に対比する文章を作ることができる。

(*)対比表現の中でも、言葉のレベルでぴったり一対一対応する対比表現を、本実践では「完全な対比」と呼ぶこととする。

Ⅴ　授業の実際

①主体的な学びの姿

②対話的な学びの姿

③深い学びの姿

V　①主体的な学びの姿

　前時で対比の関係をまとめた表の中から、アップとルーズで「分かること」の言葉に注目し、対比するとはどのようなものか考えた。
　教材文の中の二つの段落から一文ずつを抜き出し、提示した。

アップ　**アップ**でとると、**細かい部分**の様子がよく分かります。

↕ 完全な対比

ルーズ　**ルーズ**でとると、**広いはんい**の様子がよく分かります。

V　①主体的な学びの姿

試合中

アップ　**アップ**でとった**ゴール直後**のシーンを見てみましょう。

完全な対比

ルーズ　**試合終了直後**のシーンを見てみましょう。

修正

ルーズでとった**試合終了直後**のシーンを見てみましょう。

試合後

V　②対話的な学びの姿

　教科書の本文の不完全な対比表現の文章を、完全な対比構造にする学習は、レベルが高い。「これでよいのか」を子どもたちが互いに確かめ合えるグループ学習を設定した。

ルーズ

アップ　走っている選手いがいの、うつされていない多くの部分のことは、**アップ**では分かりません。

完全な対比

ルーズ　でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなか分かりません。

↓ 修正

アップ

でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、**ルーズ**ではなかなか分かりません。

V　③深い学びの姿

　一つのグループで、「なかなか」という言葉の扱いについて、「アップ」の文章に付け足すのか、または「ルーズ」の文章から消すべきかの話合いが行われた。

アップ　走っている選手いがいの、うつされていない多くの部分のことは、アップでは分かりません。

ルーズ　でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、ルーズでは**なかなか**分かりません。

アップに
付け足す？

ルーズから
消す？

V　③深い学びの姿

アップ　走っている選手いがいの、うつされていない多くの部分のことは、アップでは分かりません。

ルーズ　でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、ルーズでは**なかなか**分かりません。

アップに付け足す？

ルーズから消す？

うつされていない＝分からない

アップ　走っている選手いがいの、**うつされていない多くの部分**のことは、アップでは分かりません。

修正

アップ　走っている選手いがいの、**うつされていない多くの部分**のことは、アップでは**全く**分かりません。

ルーズ　でも、**各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ち**までは、ルーズでは**なかなか**分かりません。

うつされている＝分かる
でも、細かい部分だから「なかなか」分からない

Ⅵ　３次　理解から表現へ

児童が作った説明文

　アップでとった二宮金次郎像を見てみましょう。二宮金次郎がまきをせおって本を読んでいます。昔の服を着て、ぶ厚い本に目線をおいて、今にも歩き出しそうな 二宮金次郎の様子がよく伝わります。アップでとると、細かい部分の様子がよく分かります。しかし、このとき、二宮金次郎は、どこにどんな様子でいるのでしょう。うつされていない多くの部分のことは、アップでは全然分かりません。

　ルーズでとった二宮金次郎像を見てみましょう。新町小学校の校門の様子です。二宮金次郎の近くには、木がいくつも立っています。岩の上に立って、校門のほうを向いている様子がよく伝わります。ルーズでとると、広い範囲の様子がよく分かります。でも、二宮金次郎の服装や持っているもの、目線まではルーズではなかなか分かりません。

Ⅶ　成果と課題

■　「主体的な学び」への手立て

　教科書で対比表現されている二つの文章も、よく読むと完全な対比になっていないことに気付き、その文章をぴったり完全な対比構造になる文章に作り変える学習は、これまでお手本だった「教科書の文章」を書き直してよいという意味でも意欲を高めることにつながり、主体的に取り組む姿が見られた。

■　「対話的な学び」への手立て

　ぴったり完全な対比構造を作る際に、付け足していいのか、本当に削っていい言葉なのか文脈を考え、話し合う姿が見られ、価値ある対話的な学びとなった。

■　「深い学び」への手立て

　「主体的な学び」「対話的な学び」を通して、「対比」表現や「アップとルーズ」で事象を見る見方が子どもたちに育まれ「深い学び」につながった。

〈引用・参考文献〉
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』東洋出版2018.2
阿部昇『文章吟味力を鍛える－教科書・メディア・総合の吟味－』明治図書2003.4